

事後配布資料

# 行政と歯科とを「繋ぐ」 コミュニケーション ～行政歯科職と臨床歯科職との連携～

埼玉県本庄保健所長 遠藤 浩正

☆ 本発表に関し、COI関係にある企業などはありません  
☆ 本日の発表は、発表者の組織を代表するものではなく、個人的見解です

【経歴】 昭和37(1962)年生まれ 東京都出身。

平成 2(1990)年 明海大学歯学部卒業

平成 6(1994)年 明海大学大学院歯学研究科博士課程修了  
博士(歯学)の学位取得(明海大学)  
明海大学歯学部助手、講師を経て

平成 9(1997)年 埼玉県庁に入庁。県庁及び保健所で公衆衛生(歯科保健のほか  
感染症、精神保健福祉及び広域調整)業務に従事

平成25(2013)年 国立保健医療科学院専門課程 I 保健福祉行政管理分野分割前期  
(基礎)を修了し、保健所長有資格者の資格を取得

平成26(2014)年 県保健医療部健康長寿課副課

平成28(2016)年 東松山保健所長

平成31(2019)年 本庄保健所長

令和 3(2021)年 鴻巣保健所長

令和 4(2022)年 鴻巣保健所長兼本庄保健所長

令和 5(2023)年 本庄保健所長

《所属学会・役職等》

埼玉県保健所長会副会長

社会歯科学会副理事長

日本公衆衛生学会、日本口腔衛生学会、日本歯科医療管理学会、日本エイズ学会 会員

東京歯科大学客員講師 明海大学客員講師



## 今日の「論点」(結論)

【臨床(歯科医師会)の立場から】

- 自治体(行政)とのコミュニケーションがスムーズに、十分に取れているか
- 「公衆衛生的な口腔健康管理」の理念、方法が行政と共有できているか
- 行政歯科専門職ときちんとコミュニケーションが取れているか  
(顔が見えて、話(意見交換)ができて、立場を理解できているか)
- 行政事務職or歯科以外の専門職とコミュニケーションが取れているか

【行政歯科専門職の立場から】

- 臨床歯科職が今置かれている状況を理解しているか
- どのようなコミュニケーションをとることが効率的なのか
- 共通目標が見つかったとき、専門職以外の行政職をどう巻き込んでいるか

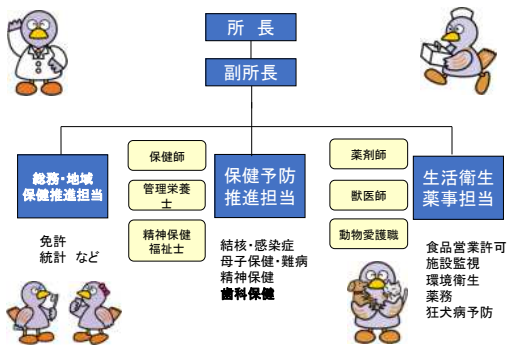
## 行政に入る機縁、そして行政の役割とは

- 地域の在宅高齢者訪問

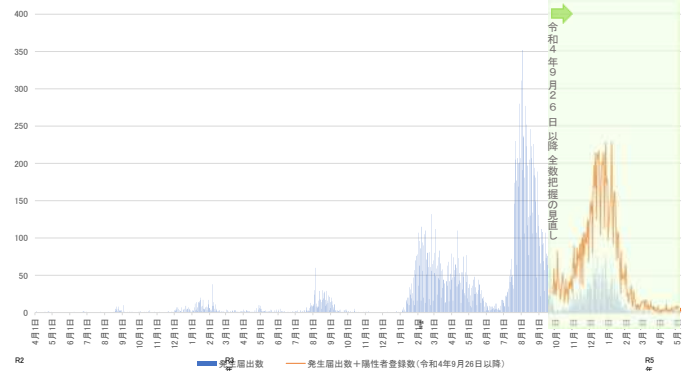
脳血管疾患の患者さん・ご家族との出会い

「人と人、人と地域を”つなぐ”」役割が行政にはある

## 保健所はこんなところですよ



本庄保健所管内 新型コロナウイルス感染症発生届出数・陽性者登録数の推移  
(令和2年4月1日～令和5年5月7日)



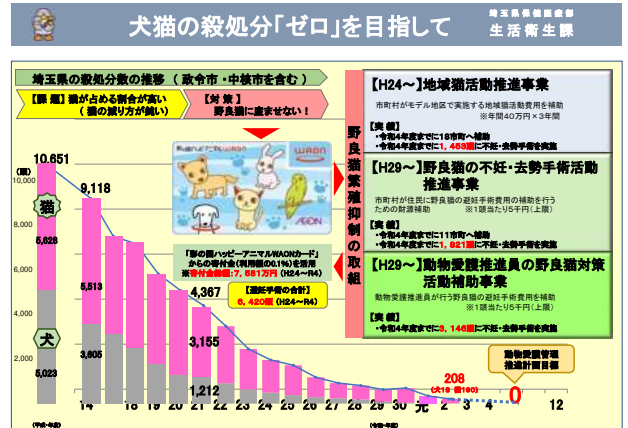
## COVID-19との3年間(私見)

### 【得られたもの】

- 感染症への知識
- 感染予防策の励行
- Stay Home
- Remote Work
- Zoomによるコミュニケーション
- デジタルトランスフォーメーション(DX)

### 【失ったもの】

- 大切な仲間
- 他人への配慮(初期)
- 「人は人を差別する」
- 人とのつながり(回復)



## 保健所の「窓」からみえるもの

- 感染症、結核、精神保健…
- 母子保健、難病・小児慢性疾患…
- いじめ、児童虐待…
- 食中毒、食品衛生、環境衛生…
- 医療安全、健康危機管理、地域医療構想…
- 開設許可、医療相談(苦情)、地域の団体…



社会のさまざまな「顔」が見える

## 「公衆衛生」とは何か(私見) ~行政に入って学んだこと

- 恩師・故 榊原悠紀田郎先生 (愛知学院大学名誉教授)のことは「公衆衛生はきれいごとじゃないんだよ」
- 初めて出会った精神疾患の若者との出会い
- 生活保護の家族との出会い



人々の生の営みに寄り添い、励まし、支える

## 中久木先生の「檄文」を読み解く⇒今日の論点

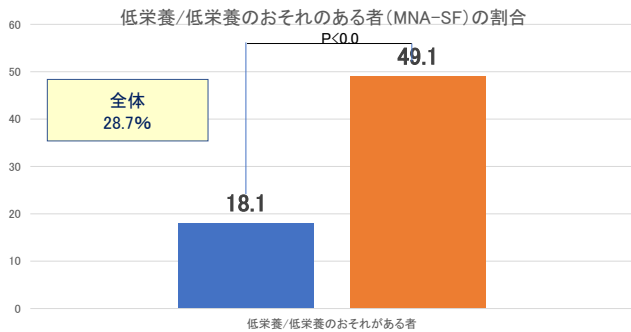
- 地域での歯科保健を推進するにあたっては、自治体とのコミュニケーションが、欠かせませんが、それはスムーズに、もしくは、十分にとれているでしょうか?
- 「歯科診療所を中心とした健康づくり」は、すでに通院の必要となった方や、医療的意識の高い方、もしくは、怖がりの方が言いなりの方(笑)だけが、対象となります。
- 健康問題がなくセルフケアができていられる方はもちろん、**歯科医院に来られない方(遠い、交通手段がない、時間がとれない、お金がない、など)**、および**来たくない方(怖い、歯科や健康全体の価値を理解できない、そもそも理解できない)には、公衆衛生的な口腔健康管理のアプローチが必要となり、自治体との連携が重要となります。**自治体とひとくちに言っても、勤務している**歯科専門職(歯科医師・歯科衛生士)**がいる場合は、その**歯科専門職が外部の臨床歯科職とのコミュニケーションの窓口を担ってくださる場合**が少なくないかと思えます。ただ、**役職が違えば、歯科専門職が居ない場合は、歯科保健担当の歯科専門職ではない職員と、コミュニケーションをとることとなります。**
- 臨床歯科職としては、**どのようにしたら、自治体に理解しやすいコミュニケーションとなるのか**、自治体に勤務する歯科専門職に伺ってみたいと思ひ、企画しました。逆にいえば、自治体の**歯科専門職としても、どのように臨床歯科職とコミュニケーションをとるのが効率的なのか**、参考となるかと思ひます。

Nakakuki's Eye

## 歯科医院に来られない方(遠い、交通手段がない、) ⇒ある地域での実話(その1)

引用:「行歯会(全国行政歯科医技術職連絡会)だより」第169号(2022/3)  
 「国保診療所の歯科衛生士を目指すまちづくり」  
 香川県・まんのう町国民健康保険造田歯科診療所 歯科衛生士 丸岡三紗さん

- 「歯が痛いのに足がなくて歯医者に行けん。どうしたらええか」  
…結局近所の人に頭を下げて歯科診療所まで送ってもらう
- 「運転免許を返納してから、生きるのが不安でしかたない…」
- 「車がなかったらどこにも行けん。スーパーも遠くて、タクシーでは一万円
- かかる。肉も魚も手に入らんのじゃ。まあこんな歯では噛めんけど…」



古田美智子、木村年秀、丸岡三紗、ほか、高齢者の低栄養に関する社会的要因について：第30回日本疫学会学術総会抄録集・2020、P.165 より作図  
「行歯会だより」第169号（2022/3）P.3 より演者が作成

## 歯科医院に來られない方(遠い、交通手段がない、) →ある地域での実話(その2)

「『足問題』。何とかしたいのはやまやまけど…」  
それって行政の仕事だよなあ。…いや待てよ？その時、ふと妙案が浮かんだ。

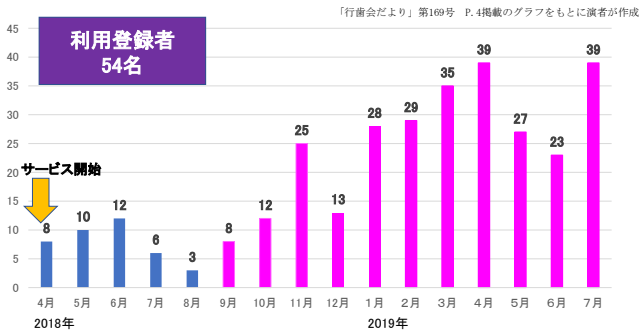
住民一人ひとりから取ったアンケート

「山奥の年寄りがバス停まで歩いていけるかってんだ！自宅まで軽自動車でお迎えに行くサービスが必要です！」と役場に訴える

「わ、わかった！それは僕も同じ気持ちや。さっそく町長に掛け合ってみるわ。」

退職後の住民(有償)ボランティアによる歯科送迎サービスが開始

## 歯科送迎サービス利用者人数の推移



## 歯科送迎サービスを開始して

### 受診者数はみるみる増加

- ・仕事を休んで通院送迎してくれている息子の嫁に気兼ねして義歯作成を諦めていた人も
- ・バスを2時間待つのがつらいと、ずっと定期受診に來られなかった人も
- ・物忘れが激しくていつも予約をバックれてしまう人も
- 誰もが当たり前にならずに歯科に通院できるようになった
- ・すべての住民を健康にするために必要なことは、決して彼らの意識変容を促すことでも、ヘルスリテラシーを高めることでもない。社会サービスの充実なのだ、と確信
- ・ひとりの行政職員が現場の声をしっかりと吸い上げてくれた事で、一瞬にして多くの住民が救われた

結局は、その地域に「よい行政職員」がいるかどうかで決まるのだ

## この事例を通しての気づき+皆さんへの問いかけ

### 【行政の立場から】

- ・こうした「現場の声に耳を傾ける」行政職員であること
- ・「生活の中に歯科(保健医療)がある」ことの認識

### 【皆さんへの問いかけ】

- ・行政職員に会いに行きますか？
- ・世間話もしていますか？
- ・行政職員に具体的な問いかけをしていますか？
- ・課題解決のために、知恵を貸していますか？
- ・行政の仕組み(長所と限界)を知ったうえで、一緒に悩み、考えてくれますか？

## …ここでお断り

- ・「私が(臨床歯科職)とのコミュニケーションが取れているので、それを教えます」ということでは全くありません!!
- ・むしろ逆で、失敗の方が多かったかも知れませんが
- ・それでも長年(20数年)行政にいたので、それなりの経験はあります
- ・頭の中の記憶を引っ張り出して、「こんな事例」や「あんな事例」から皆さんの参考になるお話ができればいいな、と思っています
- ・当然ですが、ここでの意見は所属機関を代表するものではなくあくまで個人的な見解です
- ・むしろ皆さんから感想、意見、お叱り？、励まし(笑)をいただいて情報を共有できたら、と思いますのでよろしくお願ひしますm(\_)\_m

## 何が問題だったのか？（私見）

- 必要な情報[適切な情報量、適切な質の情報]が
- 情報の所有者（行政）から
- 情報を必要とする人（DMAT）に届かなかった。それはなぜか？

- 《if①》そもそも行政が必要な情報を把握していなかった
- 《if②》「必要な情報を必要とする人に渡す」認識がなかった
- 《if③》そもそも行政とDMATに双方向性のコミュニケーションがあったか  
「頼んだラーメン、まだ来てないよー！」「さーせん👉、今出ました!!」
- 《if④》お互いの組織の特性を理解していたか

Nakakuki's Eye

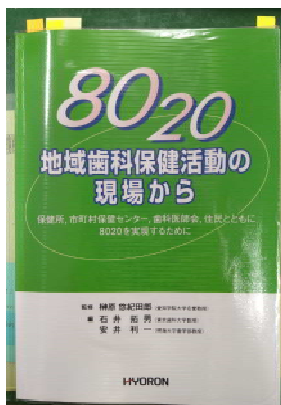
## 歯科保健担当の歯科専門職ではない職員と、コミュニケーションをとる

### 【例題】

- ある歯科医師会事業（行政委託）に、歯科専門職ではない行政職員が立ち会いにきました。

## 皆さんはこの職員にどう関わりますか？

## 私のバイブル～今日の参考書



「8020 地域歯科保健活動の現場から」

- 監修 榎原悠紀田郎（愛知学院大学名誉教授）
- 編 石井 拓男（東京歯科大学教授）  
安井 利一（明海大学歯学部教授）

※同書はいずれも当時

2001/11 ヒョーロン・パブリッシャーズ

☆現在も通販サイト等で入手可能です☆

## 医療機関と行政の連携はなぜ必要か？9か条

矢澤 正人（東京都多摩小平保健所（当時））、一部改変

- ① 「診療所完結型の歯科医療」から「地域連携型の歯科医療」へ
- 自院完結ではなく、地域での様々な取り組みが不可欠
- ② 予防を含めた包括的な歯科医療の必要性
- 医療Only → 予防も含めた包括的な医療
- 乳幼児期から高齢期、障害者・要介護者等への対応
- ③ 国民の歯科界への要望・期待と歯科医・歯科界の対応
- 「生涯、自分の歯で」をはじめ住民（国民）のNeedsとWantsを捉えているか
- この流れを認識しないと社会と遊離

## 医療機関と行政の連携はなぜ必要か？9か条

- ④ 地域保健・医療の推進と充実のために
- 歯科医師会と行政がしっかり地域の保健・医療システム構築しないと、行っている事業の成果が現れない
- ⑤ 国民の歯科的ニーズと受療行動の顕在化
- 地域の歯科医療のニーズはあるのに、住民の意識・利用システムに課題があると歯科受療行動に結びつかない
- ⑥ 8020運動推進のため、「かかりつけ歯科医」が公衆衛生的な位置づけが必要
- かかりつけ歯科医を基盤とした歯の健康づくり、生涯を通じた管理が基本となる必要性

### 参考

## かかりつけ歯科医（日本歯科医師会の定義）

- かかりつけ歯科医とは、安全・安心な歯科医療の提供のみならず医療・介護に係る幅広い知識と見識を備え、地域住民の生涯に亘る口腔機能の維持・向上をめざし、**地域医療の一翼を担う者としてその責任を果たすことができる歯科医師**をいう。

### 【かかりつけ歯科医の役割】

- 患者の**乳幼児期から高齢期までのライフステージに応じた継続管理**や**重症化予防のための適切な歯科医療の提供および保健指導**を行い、**口腔や全身の健康の維持増進に寄与**すること。
- 地域の中では、住民のために行政や関係する各団体と共に**歯科健診などの保健活動等を通じ口腔保健向上の役割**を担い、**地域の関係機関や他職種と連携し、通院が困難な患者にさまざまな療養の場で切れ目のない在宅歯科医療や介護サービスを提供**するとともに、**地域包括ケアに参画**することなど

## 医療機関と行政の連携はなぜ必要か？ 9か条

- ⑦ 地域の健康づくりにおける協働の重要性
- 健康：個人の努力だけでなく、環境の果たす役割が大
- ⇒行政の関わり+社会環境としての医療機関の関わりは重要
- ⑧ 保健医療における「公・共・私」の役割分担と協働の重要性
- 「公・共・私」の役割分担と協働の重要性
- ⑨ 歯科医自身のアイデンティシーの確立のために
- 歯科医療とともに、地域住民の健康づくりに確実に寄与
- ⇒歯科医師としての生きがいと誇りに

## 医療機関と行政が連携するために必要なことV章(矢澤)

- I. 相互理解のための十分な話し合いの場
- ① Formalな場+Informalな場(日常的な交流の場)
- ②現場の具体的な事例、困りごとからスタート
- ③何より重要なのは「人と人との信頼関係」の構築
- II. コーディネート役としての行政歯科専門職が機能
- ⇒「通訳、翻訳者」としての行政歯科専門職の役割
- III. 歯科保健事業の重要性を内外(歯科以外にも)理解してもらう
- ①様々な行政計画の中に盛り込んでいく⇒そのための根回し、準備
- ②種々の歯科保健活動の実績をうまくアピール
- IV. 国の予算の情報等を把握
- V. 住民の現場からの意見、感想を反映させる

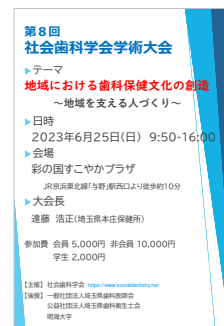
### 提案

## 事務職こそ大事にしよう♡

- 公務員になる人＝基本的にまじめ。
- 多くの職員は「世の中をよくしたい」と思って入庁している。
- 「知らない仕事」への対応力は優れている(1年経つとおおよそのことは理解して仕事ができる⇒1年間は辛抱しましょう)
- 若手のうちに「歯科」をインプットしておくことは決して無駄ではない
- 歯科の「社会的意義」を論理性、客観性をもって訴える
- ⇒彼(女)らの『公務員Split』に火をつけよう

「役所の中に「歯科の応援団」を増やすことが大命題

## 第8回社会歯科学会学術大会



- 鼎談「公衆歯科衛生を語る～次世代へのメッセージ」  
大久保満男 元日本歯科医師会会長  
箱崎守男 元日本歯科医師会副会長  
石井拓男 元厚生省歯科衛生課長
- 教育講演「小児在宅歯科医療のいま、これから」  
田村文善 日本歯科大学教授
- シンポジウム《共催：日本障害者歯科学会》  
「すべての障害者(児)が適切な歯科医療・口腔管理を受けるための方策について～国民皆歯科健診議論を契機と捉えて～」  
服部 清(静岡県障害者歯科医療センター)  
小松知子(日本障害者歯科学会副理事長・神奈川歯科大学)  
和田康志(厚生労働省医政局歯科保健課)  
座長 秋野憲一(札幌市保健福祉局)、福田雅臣(日本歯科大学)

## 学術大会を通して気づいたこと

### 【鼎談を通して】

- 人脈をつくること、活かすこと
- 直接会ってコミュニケーションをとること

### 【シンポジウムを通して】

- 行政を動かすためにはエビデンスが必要  
(例) 歯科健診(歯・口腔の健康づくり)の必要性は認識されつつあるものの検診制度を充実するためには(各法律に基づく)政策の趣旨に沿ったエビデンスを示し、実施主体(市町村、保健者等)の理解を得ることが必要

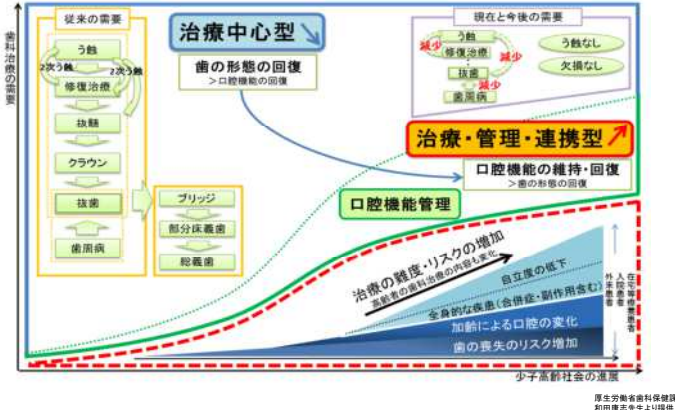
## 大久保先生の言葉から

- 私たちの健康を増進する運動がすべて善であり、そこに正義が宿っているという考え方に何の疑念をもたない、そのような運動が住民参加型の基盤になるとしたら、それは別の意味で、民主的強権システムとでも名づけねばならない運動が誕生することになり、そこにはその活動の自発性や楽しさに裏づけられた参加者のいきいきとした顔は生まれない
- 健康に善や正義を貼りつけ、こう生きるべきだと健康を強制し声高に主張する行動ではなく、その人らしい生を生きるために健康であることを願うこと、それしかわれわれにはできないことを自覚し、しかしその願うことこそが、われわれの活動を寛容と豊かさに大きくしてくれるのだと信じてみることでないだろうか

出典「歯科で生かそう 健康増進法」(医歯薬出版 平成15年)

## 歯科治療の需要の将来予想 (イメージ)

○ 人口構成の変化や、歯科疾患罹患状況の変化に伴い、歯の形態の回復を主体としたこれまでの「治療中心型」の歯科治療だけではなく、全身的な疾患の状況などもふまえ、関係者と連携しつつ患者個々の状態に応じた口腔機能の維持・回復（獲得）をめざす「治療・管理・連携型」の歯科治療の必要性が増すと予想される。

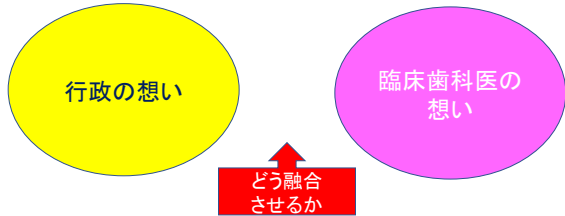


## かかりつけ歯科医のイメージ



## 自治体(行政) 歯科職と臨床歯科職の理解を深める必要がある課題について

- 1. 医療的ケア児などの小児在宅歯科医療
- 2. 障害者口腔保健センターへの患者集中と地域の身近な歯科診療所との役割分担



## 第8回社会歯科学会学術大会

全ての障害者(児)が適切な歯科医療・口腔管理を受けるための方策について～国民皆歯科健診議論を契機と捉えて

## 障害者口腔保健センターへの患者集中と地域の身近な歯科診療所と役割分担

静岡市障害者歯科保健センター  
服部 清

以下、注記のあるスライドは服部清先生の御好意により提供を受けて使用しております(遠藤)

障害者口腔保健センターを「センター」と略します  
障害者(児)、障がいのある人を「障がい者」と表記します

## 結論

- ・障がい者には、暮らしたい地域で適切な時期に適切な歯科保健・医療が提供される環境が必要である(地域に適した歯科保健医療提供体制の整備)
- ・センターへの患者集中は、地域医療提供体制の整備が十分でないことが主たる原因と考えられる
- ・センターの役割は、①地域医療提供体制の中核機関、②地域医療提供体制の支援・調整機関として機能することである
- ・地域の身近な歯科診療所の役割は「かかりつけ歯科医」として、障がい者の歯と口腔の健康づくりを継続的に支援(口腔健康管理)することである

あるべき姿：  
すべての人が、  
暮らしたい地域で適切な時期に  
適切で安心・安全な歯科医療を受けられる

## 障がい者の現状

- 障がい者数の増加
- 本人の高齢化、家族の超高齢化
- 障害者差別解消法改正(2024/4/1)
  - 合理的配慮の提供を民間の事業者にも義務化
  - ⇒機会の不平等を正すため(機会均等)
  - ⇒障がい者が身近な歯科医療に受診できるように
- 国連による障害者権利条約 対日審査 総括所見  
2022.9.9発表

服部清先生(静岡市障害者歯科保健センター), 第8回社会歯科学会(2023年6月25日)より引用

## 分離から統合そして包摂(共生)

**エクスクルージョン(排除)**      **セグレゲーション(分離)**

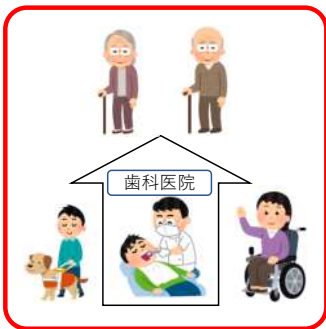
**障害児の分離教育中止要請 国連が日本に初勧告**

脱施設=自立した生活と地域社会へのインクルージョン  
 成年後見人制度の見直しと支援付き意思決定の仕組みづくり  
 精神障害者の非自発的入院や強制治療 等

図の引用:【解説記事】インクルーシブ教育とは? 重要キーワードと日本における現状をわかりやすくまとめました。メガホン School Voice Project, 2022.12.22  
<https://megaphone.school-voice-pj.org/2022/12/post-2405/>  
 服部清先生(静岡市障害者歯科保健センター), 第8回社会歯科学会(2023年6月25日)より引用

メガホン × カタリスト for edu

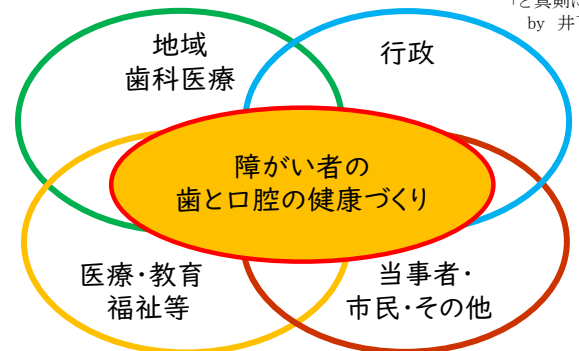
## 《余談》大学で私が伝えていたこと



- バンク・ミケルセン  
「ノーマライゼーション」  
朝日新聞 天声人語  
「障害者は人間に戻りたい」
- NHKドラマ「男たちの旅路」  
『車輪の一步』(脚本:山田太一)  
「人に迷惑をかけることを怖れるな」

ホームに降りた少年と母

システムを維持・向上させる仕組みがある  
=それぞれの本気度を維持向上させる



どれが欠けてもうまくいかない

服部清先生(静岡市障害者歯科保健センター), 第8回社会歯科学会(2023年6月25日)より引用

(一部、遠藤進記)

## 望ましい障害者歯科保健医療政策

- 入所施設だけでなく、GH等にも口腔アセスメントをできれば義務化、そのための財政支援としてのサービス報酬への口腔衛生管理体制加算の拡充
- 障害者歯科医療提供体制を2次医療圏域単位で構築するための政策
- 受診できない理由の中に生活困窮もあるため、償還払いではなく、どの自治体も窓口負担をゼロにするなどの施策が必要
- 病院の退院支援加算に相当するような地域移行支援のための診療報酬改定 MSWをセンターに雇用できる仕組み

服部清先生(静岡市障害者歯科保健センター), 第8回社会歯科学会(2023年6月25日)より引用

行政歯科職と臨床歯科医の連携を考える  
上で、今課題になっている事例を提示しました

皆さんはどうお考えですか?  
ぜひとも皆さんの声を聴かせてください